

祝

成



日町成人式

新成人 次代担う決意

東日本大震災の年に小学5年生だった子どもたちがことし、人生の門出を迎えました。晴れの日を迎えた未来ある新成人たちの喜びと決意をお伝えします。



1月12日、町中央公民館には、晴れの衣装に身を包んだ若者が集いました。対象者160人中132人が出席した今年の成人式。会場には、晴れの舞台を祝福しようと家族や友人、各種団体の来賓が訪れました。

主催者あいさつで、佐藤信逸町長は「大人になることで権利や自由、周囲からの期待は大きくなるが、同時に責任や義務は重くなる。大人としての自覚を持ち、立派な社会人になることを願う」と強く激励。小説家の井上靖さんの言葉『努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。』を引用し、社会で自分に打ち勝ち、努力し続けることの素晴らしさを話しました。

新成人を代表して「はたちの決意」を述べたのは、武藤広太



